

議題

令和6年度予算について

説明

歳入の部については、市町村からの負担金で3億4,778万2,000円です。各市町村の負担金については、営業距離での按分による算出を基本としています。

内訳としては、富田林市からの負担金が1億5,611万6,000円、太子町からの負担金が4,006万6,000円、河南町からの負担金が1億2,709万5,000円、千早赤阪村からの負担金が2,450万5,000円で、合計3億4,778万2,000円です。

なお、地域公共交通計画の策定については、国費の申請を予定しており、国費が確定後、補正予算にて計上します。

歳出の部については、会議費、事務費及び事業費で3億4,778万2,000円です。

内訳としては、会議費が75万2,000円、事務費が48万8,000円、事業費が3億4,654万2,000円です。

会議費については、委員報酬及び費用弁償として、75万2,000円です。

事務費については、消耗品費、備品購入費、職員旅費その他の費用として、48万8,000円です。

事業費については、その内訳について詳しく説明します。

まず、運行経費については、4市町村コミバスが運行する9路線（北大伴線、石川線、千早線、河内線、白木線、さくら坂循環線、東條線、喜志循環線、阪南線）について、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの運行に要する経費から運賃・広告等の収益を減じて得た費用として、2億8,507万3,000円です。

定期券販売に係る経費については、スマホ定期券システム利用、紙定期券販売業務委託、消耗品等に要する費用として、1,910万1,000円です。

計画・維持管理に関する経費については、地域公共交通計画の策定、停留所の標柱設置、維持管理等に要する費用として2,710万2,000円です。

休憩所等に係る経費については、喜志駅及び富田林駅に設置する乗務員の休憩所に関する費用として926万9,000円です。

最後に、印刷製本費については、時刻表等の作成に要する費用として599万7,000円で、合計3億4,654万2,000円です。